第47回「議員と語ろかい」報告書

文教厚生常任委員会（№1）

開催日	令和6年11月6日（水曜日）　15時00分　～　16時30分		
開催場所	霧島市役所　議会棟4階　3・4委員会室		
団体名	霧島市社会保障推進協議会	参加人員	7人 （男性5人女性2人）
出席議員	松枝正浩、野村和人、藤田直仁、塩井川公子、山口仁美、宮田竜二、前島広紀、有村隆志		
役割分担	班長（松枝正浩）、 副班長（野村和人）、 記録係（山口仁美）		
テーマ及び具体的な内容	介護保険について　その他		

意見交換での主な意見等	1.　資料の説明 財源論が出てくるが、財務省の数字からみると裕福な国である。 アメリカと比較すると健全である。お金がない、という議論は値しないということを前提に議論したい。 ①　訪問介護事業所におけるアンケート調査結果より 生協病院があるところを中心にとったアンケート（解答率 13.3%） 主にヘルパー事業所からと捉えてほしい。施設併設のヘルパーステーションがトレンド。2/3 は併設ではない。 安定してサービスを受けられない状況が続いている。報酬引き下げに納得いかない事業所が多い。加算で処遇改善することは困難。83.3%が経営状況厳しいと回答。 ②　居宅介護事業所におけるアンケート調査結果より 小さい事業所が多く、加算が取れない事業所が多い。ケアプラン作成上限引き上げは、業務負担や質の面から好ましくない。居宅も処遇改善加算の対象にしてほしいという声。78.4%が経営状況厳しいと回答。人材不足が 35%。

◆は参加者の発言　◇は議員の発言

2.　介護事業者の実態について

◇霧島市内で、訪問介護事業所の閉所等あったか。

◆二か所は把握している。人材不足と経営不振。要求はあるが人材がいなくて収益が出ない。
シルバー人材センターの方が報酬が高いという声もある。

◆全国の状況では、倒産件数最多。97町村で訪問介護事業所がない。保険料は払うのに、利用ができない地域がある。

◆利用者の側。介護予防をどのように進めていくかが大切である。
１人暮らしができる人をどう支えるか。５人に１人認知症。地域で安心して暮らせるにはどうするのか。
各事業者間での介護人材をどのように育てていくのか。

◆過疎地域にも、社会保障制度を手厚くするために、市が予算を確保してほしい。
介護の現場も高齢化。辞めた人も戻ってこられるような待遇にできないのか。

◇社会保障については、国の責任が大きいのではないか。

◆国が一番責任があるが、国でできないところは市ができることもあるのではないか。

◇霧島市内で、訪問介護サービスが提供できない地域はあるのか。

◆竹子、福山町福地、横川、牧園、霧島の一部などが提供できていない。
登録ヘルパー（現住所から直行直帰できるヘルパー）で対応する場合もある。

◇他の事業所等との交流はあるのか。

◆福山の事業所　今年初めに閉めたものを引き継いだ。

◆人材不足について、ヘルパーは過去に養成講座などでたくさんの方が資格取得したが、現在不足するのは、ただ単にお金の問題だけではない。自分がやりたいケアを十分できないモチベーションの低下もある。

◆南九州市頴娃では事業所がなくなった。事業所に勤めたら市がヘルパー資格取得費用を出す事業がある。

◆元気な高齢者を元気にすることが大切。
要支援1・2の方々を丁寧にケアすることで、予防につながる。
霧島市は、認知症初期対応チームが充実しているが、各地域の中で考えていくことが大切。

◆総合事業は、市ができる余地がある。持続可能な報酬など、工夫していけないか。

◇事業所で取り組んでいる予防の取組を教えていただきたい。

◆生協は、組合員を中心に、班会・ご近所付き合い・友達づくり・居場所づくりなどしている。
ひっころばん体操。理学療法士の指導で、健康づくりをしている。毎週集まって活動する。週2回。集まってお茶を飲むなど、交流が起きることが大切。串木野、日置、さつま町など。
大和村は住民タクシーがある。